

コロナ禍が続く中、昨年以上に感染対策を講じながらも「第54回体育祭」を実施することができました。「コロナのせいで、ではなく、コロナだからこそできる体育祭を」と語る体育祭実行委員長の藤井さん（F）、副委員長として準備にあたった清水さん（S）、山時さん（Y）に話を伺いました。

コロナ禍で、体育祭を実施するには多くの課題を一つずつ乗り越えていかなければならなかったと思います。体育祭を終えて、今の気持ちを聞かせてください。

（F）閉会式の挨拶で、声を出すのではなく右手をあげてもらったのですが、その時の感動は忘れられません、感無量でした。ずっと頑張ってきたことが、当日一瞬で終わってしまったような気がしています。今は、体育祭が終わり、何もない放課後はこういう状態なんだなと感じています。それだけ体育祭に思いをかけて、毎日準備にあたっていたんだなと思い返しています。

（S）私は初めてこれだけ大勢の人の前に立つという経験をしました。つらい場面もありましたが、今は体育祭が終わって寂しい気持ちと解放されたという気持ちが共存しています。

（Y）2年生になったときから体育祭の準備を進めてきたので、体育祭が終わった今、日常生活に慣れない感じです。いろいろな面でイレギュラーな対応をしなければなりませんでした。多くの人に楽しかったと言ってもらえたので、やって良かったなと思っています。

閉会式の実行委員長の挨拶で、「今日一日楽しかった人は右手をあげてください。」と投げかけ、ほとんどの生徒が右手をあげました。この投げかけは素晴らしかったと思います。全校生徒がこの体育祭での感動を共有するとともに、肯定的な言葉で、大きな声をだしてはいけないのだということをお願いさせてくれました。コロナ禍において様々な制約がありながらも、いかに意味のある体育祭にしていけるか、努力し続けた実行委員の皆さんの姿勢を象徴していると思います。

（F）どうもありがとうございます。

今年の体育祭は、当初から多くの困難が想定されていたと思いますが、4月当初に体育祭実行委員に立候補した理由を聞かせてください。

（F）私は昨年も体育祭実行委員でした。昨年は応援団だけの本当に規模の小さいものだったのですが、今年は状況も変化し、できることもあるかなと思ったので、自分たちができることを探して、皆が笑顔になれるイベントが作れればと思いました。

（S）私は応援団をやりたかったのですが、私のクラスはダンス部の人が多く、人数制限がある中で厳しいかなと思いました。それならば、別な形で関わりたいなと思いました。

（Y）説明を受けた時に、体育祭実行委員会の仕事は、体育祭までの期間に集中しているので、その後は勉強の時間も確保できるかなと思いました。また、私は中学校時代に体育委員で体育祭に関わったことがあるのですが、中学校の時は先生がプログラムを作り、先生に指示されて動くという感じでした。高校では、自分たちで考えて行動する体育祭を作りたいという思いから、幹部として関わろうと思いました。

今年の体育祭を企画するにあたって外せないのがコロナ対策だと思いますが、どんなことを考えましたか。

(Y) あらゆる場面でまずはそれを考えました。

(F) 応援団の練習は、普通にやれば、大きな声を出し、密集した状態になるので、どのように行うかが、大きな問題でした。さらに今年は2棟の耐震工事をしている関係で、練習場所がない上に雨が続いたりしたので、本当に大変でした。外練習を想定していたので、急遽、先生方をお願いして個人面談の場所を移ってもらったりもしました。お天気を含め、想定外のことが起きること、コロナの感染状況によっては緊急事態宣言が出るかもしれない、体育祭ができなくなるかもしれない、いろいろなことを考えながら進めていかなければならず、その場その場の対応が必要でした。



(S) 騎馬戦など、人と接触する種目はできないので、従来やっていたものはほとんどできない状況でした。

(F) 走るだけでは変化がないので、幹部全員で考えて、2年生の種目として、しっぽとりを取り入れました。基本的に鬼ごっこは楽しいと思うのですが、対面しないようにということで、しっぽとりにしました。

(Y) キャリーボールや台風の目など、道具を持つものは、競技の中に手指のアルコール消毒を入れました。さらに、応援席の配置にも工夫をしました。お互いの距離を保つために、一人1枚のレジャーシートを用意してもらい、共用しないようお願いしました。各色別に皆がレジャーシートで座席を確保し、かつ演技がみられるだけのスペースをどう確保するか、なども考えました。

(F) アルコールが使えない生徒もいるので、ノンアルコールの消毒液も用意しましたが、実際やってみると、道具の方にアルコールが付着していることがわかり、対応を考えました。感染者を出さないというのが絶対条件でしたから、やってみなければわからないことも含めて、いろいろなことを想定して準備していかなければならないと思いました。当日が近づくにつれて、あれも、これもと気になる事や対処しなければならぬことがわかり、対応していきました。

ビッグフラッグについてはどうですか。

(F) 今年は、持ち運びや展示方法なども考慮してビッグフラッグにしました。当初、協力してくれる人がいるかどうか心配をしていました。また、応援練習の場所を確保するのも大変な中、ビッグフラッグの制作を行う場所を確保できるかという課題もありました。担当してくれた人たちが、がんばってくれたと思います。

応援合戦についてはどうですか。

(S) 当初、応援団をやろうという人が集まらず、幹部の中でも継続か廃止かで、議論になりました。生徒グループの先生たちとも話し合いを続けましたが、自分たちは何のために議論をしているのか混乱したこともありました。



(F) 2年生で、応援団をやってくれる人を募っている状態だったので、今回は、色によって人数のばらつきはありましたが、それを制限するという事はしないということにし、各色にも説明し納得してもらいました。



(Y) 応援団を無理やりやるのは難しいし、一方で伝統を消すのも難しい、自分の中で葛藤がありました。このような形でできたので、良かったなと思います。

(F) 当日、私は、スターターだったので、特等席で見ることができました。昨年、経験をしているだけに、これだけの人数で拍子をそろえる大変さも知っているし、しかも今年は団長と副団長の2人しか声を出せない中でよく頑張ってくれたなと感動しました。



(Y) 今回のことで、伝統の良ささと難しさというものを学びました。

応援合戦は、見ていた生徒から「かっこいい」などの声が聞こえていました。また、練習の段階を含めて1年生が楽しそうにやっている様子も見ました。2年生が随分と気配りをしてきていたのではないかと考えています。



(F) 応援団はつらいし苦しいという風に思っほしくないと考えていました。応援団の2年生も私たち幹部を頼ってくれて、連絡を取り合ってたので良かったと思います。

各色の応援団も、2年生数人で1年生 80 名を率いていくのは大変なことだったと思います。ところで、当日、プログラムを進行させていくにあたっては、想定外のことも起きたでしょうから、判断が難しい場面もあったのではないですか。

(Y) 中学の時は先生が言うことが正しくて、それに従っていれば良かったのですが、今回の体育祭では、自分たちが判断しなければならない場面もあり、何が正しいのだろうか、どのように判断してければいいのか迷うこともありました。結果的には自分たちの判断で良かったと思っています。いい経験をしたと思います。

体育祭が終わった後、昨年の体育祭実行委員(3年)が、「今年の体育祭実行委員は本当によくやっている。昨年、競技を取り入れていたとしても、自分たちはあそこまでできなかったと思う。素晴らしい。」と言っていました。私は、それを素直に言える3年生も素晴らしいと思います。

(Y) 3年生の先輩方は、特に競技の時など、何も言わずに手伝ってくれました。先輩は違うなと思いました。

(F) 1年生は「自主性」ですが、3年生は「主体性」という感じで、光陵の3年間を見る思いでした。3年生は本当にすごいと思うし、助かりました。感謝しています。

来年に向けて何か考えていることはありますか。

(F) 今年使ったデータなどを含めて、しっかり引継ぎをしていきたいと思います。私たちはグラウンドの計測から始めたので、それを伝えることで次の学年のスタート地点を少しでも前進できればと思います。

それがまた新しい伝統になっていくのかもしれませんがね。準備の段階を含めて、応援団や道具の準備等を担当してくれた各部活動、放送、救護、清掃などを担当してくれた各委員会などの言ってみればサブ組織との連携・協力を得ながら、当日は全校生徒が楽しく参加できる体育祭を進行管理した体育祭実行委員会の皆さんに、改めて敬意を表したいと思います。今日はどうもありがとうございました。

[第54回体育祭のページ](#)